

国際基準に基づく医学教育認証評価制度の発足
東京医科歯科大学医歯学教育システム研究センター長
全国医学部長病院長会議医学教育の質保証検討委員会委員長
奈良 信雄

はじめに

2010年9月、全国医学部にショッキングなニュースが駆け巡った。アメリカ・カナダ以外の医学部出身者に対してアメリカで医業を行う資格を審査する Educational Commission for Foreign Medical Graduates (ECFMG) が、申請条件として、「2023年以降は国際的な認証評価を受けている医学部出身者に限る」との通告を全世界に発信したのだ (<http://www.ecfmg.org/about/initiatives-accreditation-requirement.html>)。いわゆる「2023年問題」である。

翻って考えれば、アメリカのクシャミーつで大騒ぎするのは如何なものかと思う。しかしその一方では、国民の健康を守るべき医師の育成が、アカデミズムを重んじる他学部と同様に各大学、場合によって各教員の自由裁量に委ねられてきたのは、さらに由々しき問題だと考える。公的機関による厳正な認証評価を受け、質が保証された医学教育を受け、一定の医療水準が担保された医師を輩出することこそ、むしろ当然のことではないだろうか。

この通告を受け、全国医学部長病院長会議では2011年に「医学教育の質保証検討委員会」を発足させ、小生が委員長となって検討を開始した。また、平成24年度文部科学省大学改革推進委託事業：GP) による「国際基準に対応した医学教育認証制度の確立」が採択され、東京医科歯科大学を事業推進責任校(担当責任者:奈良)として、東京大学、千葉大学、新潟大学、東京慈恵会医科大学、東京女子医科大学が連携校となって、医学教育認証評価制度確立に向けた研究を5年計画で行うこととなった。

わが国では大学に対する機関別認証評価は、大学評価学位授与機構、大学基準協会、高等教育評価機構によって行われてきた。しかし、分野別認証評価は、法科大学院など、ごく一部にしかない。ECFMGの通告を契機に、わが国の医学教育の全体的な質保証を目的に、国際的に通用する医学教育の認証評価制度を発足させることとなった。

海外諸国における認証評価制度

ECFMGの通告には、「アメリカ国民の健康を守るには、質の保証された医学教育を受け、コンピテンシーが担保された医師にしか医業を任せられない」との大義名分がある。グローバル化が進み、医師が国際間を自由に往来できる現状を憂慮したわけである。一方では、質が担保された有能な医師に活躍してもらい、医療の質を高めてもらいたいとの思惑もあろう。

医学教育の認証評価制度が確立した国は多い。アメリカ、イギリス、オーストラリアなど欧米先進諸国はもちろん、韓国、台湾、マレーシア、タイなど近隣アジア諸国でも10年以上も前から認証評価が実施されている。わが国は後塵を拝しており、一刻も早い国際基準に基づく認証評価制度の確立が急がれる。筆者は海外諸国における認証評価制度を視察調査し、その良い点を導入することとした(図1、2、3)。

わが国における認証評価制度の発足

国際的に認知される医学教育認証評価制度として、二つの必須要件がある。

第一は、政府／全医学部によって認知された公的認証評価機関の組織化である。そこで、文科省 GP での研究と同時に、全国医学部長病院長会議や日本医学教育学会等との協力により、日本医学教育認証評価評議会（Japan Accreditation Council for Medical Education: JACME）を発足させ、認証評価制度確立の検討を開始した。まずは JACME の存在を国際的に発信していくことが必須要件をクリアする上で重要と考える。

二つ目は、国際基準に則った認証評価を実施することである。この目的には、日本医学教育学会「分野別認証検討委員会」が中心となり、WFME のグローバルスタンダードを日本の実状に合わせて改変し、国際的に通用する評価基準を策定した（http://jsme.umin.ac.jp/ann/jmse_an_120624_WFME.html）。

認証評価制度のあり方

諸外国における認証評価制度は基本的には次の構成からなり、JACME も同様なスタイルでの認証評価制度を計画している。

- ①自己点検評価（self-evaluation）
- ②自己点検評価の認証評価委員による査読、文書での質問
- ③認証評価委員による現地調査（site-visit）
- ④評価結果報告、認証
- ⑤認証評価に基づく各医学部での改善

認証評価は、評価基準に沿って各医学部が自己点検することからスタートする。医学教育の質を保証する上でもっとも基本かつ重要なのは、各医学部が自主的に自己点検評価を行い、良い点は堂々と公開し、改善すべき点は自ら改革することにある。外部の認証評価委員に指摘されるまでもなく、改善すべき点は自主的に改善する姿勢が尊重される。

自己点検評価資料は JACME に送られ、JACME 委員が査読する。査読後、質問を医学部に発したり、追加資料を求める。その後外部評価者チームが医学部に出向いて現地調査を行う。外部評価者チームは、JACME 委員に利害関係のない医学部教員も加え、総勢で 6～7 名から編成される。委員数を増やすことで、より公正な外部評価が期待できる。

外部評価では、教育担当者、教員、学生、研修医等と面談し、質疑を行う。さらに講義や実習を見学したり、教育病院や研究施設等を視察する。こうして医学部で国際基準に準拠して適正に教育され、成果があげられているかどうかの判定が行われる。

最終的には JACME が外部評価者チームの最終報告を参考に、認証を行う。評価結果は原則として公開する。

進捗状況と今後の方針

認証評価制度の発足に重要な役割を果たしたのが、平成 24 年 10 月 29 日～11 月 2 日に行われた東京女子医大における国際外部評価である。世界医学教育連盟（World Federation for Medical Education: WFME）の西太平洋地区支部（Association for Medical Education in Western Pacific Region: AMEWPR）から 5 名の外部評価委員を招き、筆者も委員として加わり、計 6 名で外部評価を実施した（図 4）

（<http://www.twmu.ac.jp/news/news-u-all/798-2012-11-29-05-51-43.html>）。この経験を土台に、順次、JACME による認証評価を受審希望医学部に広げていく方針である。

認証評価の目的は、医学部の序列化でも差別化でもない。国際グローバル化に対応すべく、全国レベルでの医学教育の質向上が目的である。全医学部、行政機関、医療関係者のご理解、ご協力を仰ぎたい。

図1（写真）：オーストラリア医学評議会（AMC）での認証評価に関する意見交換。

図2（写真）：台湾における認証評価機関。左から事務官、劉克明、林其和、奈良信雄、頼其萬、鈴木利哉、事務官（敬称略）。

図3（写真）：韓国高麗大学での外部評価。左側：外部評価者チーム、右側：大学側担当者。

図4（写真）：東京女子医科大学における国際外部評価委員。左から Nabishah Mohamad（マレーシア）、奈良（日本）、Ducksun Ahn（韓国）、Maichel Field（オーストラリア）、Terry Wolpaw（アメリカ）、Theanne Walters（オーストラリア）敬称略

